

校長通信

(教職員版) 第56号 H30. 11. 9

「キャリアの軸」を育てるキャリア教育

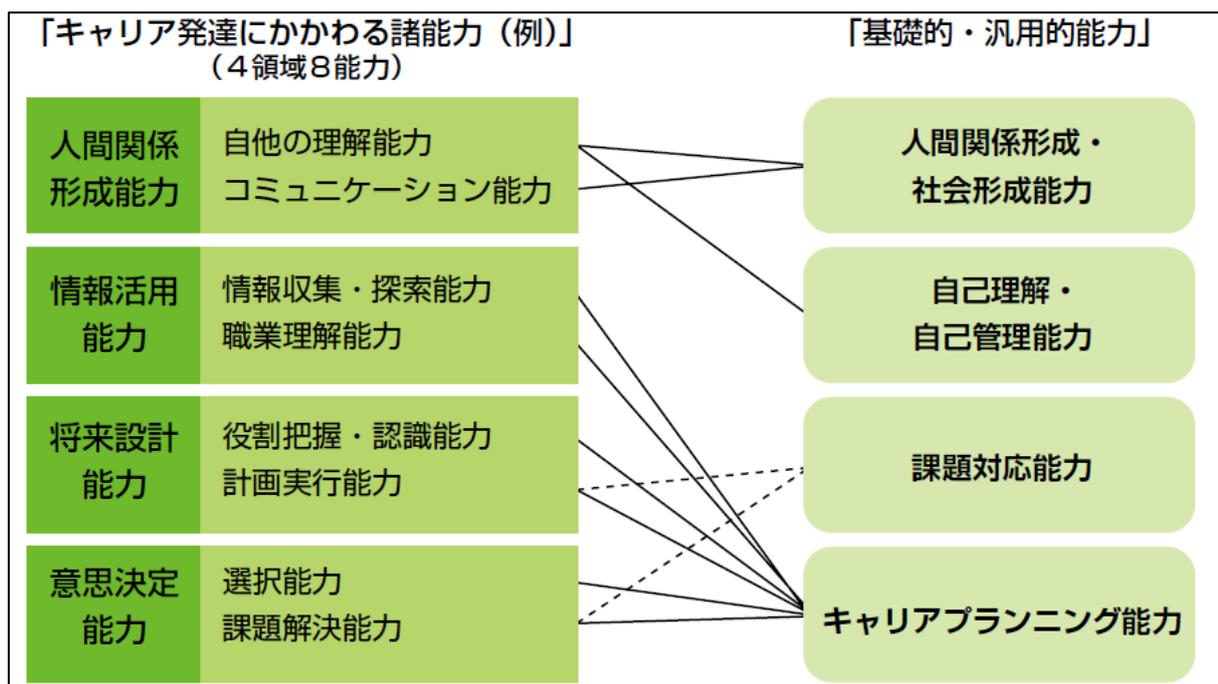
【1】はじめに

11月3日(土)、九州情報大学で開催された「キャリア教育 in Fukuoka2018」に参加してきました。今回のセミナー参加の第一の目的は、東京学芸大学監修のもと、JTBがマイナビと共同開発した「CASプログラム(Career Axis Support Program)」なるものは、どのようなものであるかを学びにいくことでした。というのも、私の今年の課題は、「クエストエデュケーション後のキャリア教育をどのように行うか?」ということだからです。この課題を進路指導部や現2年生の先生方にも投げかけていました。その結果、大きく前進した一つが、6月に行われた「夢ナビライブ」への初参加と11月8日に実施した「社会人に学ぶ」というオリジナルの手作り企画です。特に、「社会人に学ぶ」は、企画、講師探し、運営からすべて手作りでしたので、「産みの苦しみ」は相当ではなかったかと思います。この二つの企画については、次年度も継承して行ってほしいと考えています。

さて、進路指導とキャリア教育の違い、先生方は理解されていますか?それ以前に、キャリア教育とはそもそも何かを理解されていますか?その辺りから紹介していきたいと思います。

【2】そもそもキャリア教育とは?

「キャリア教育」という言葉が、公に使われ、学習指導要領にその言葉が掲載されるようになったのは、平成11年ごろからです。比較的新しい教育概念です。それ以降、小学校、中学校、高等学校と文部科学省のwebpageには、キャリア教育の手引きが掲載されています。その手引きには、職業体験とかインターンシップなどが例示されているためか、小・中学校段階では、このような取り組みが盛んに行われるようになりました。高校段階でのキャリア教育は、主に就職や専門学校に進学する生徒を対象に語られることが、大阪では多いです。この「大阪では」というところがポイントで、文科省の研究指定を受けた高校は、何も就職中心や進路が多様な高校ばかりではなく、進学校も多数あります。というのは、キャリア教育でめざしている力は、就職や専門学校の生徒だけを対象としたものではなく、全ての高校生に求められる力だからです。どのような力をキャリア教育は求めているか、それを示したのが下の図です。この図は先ほどの手引きに掲載されています。



少し解説すると、国立教育政策研究所からキャリア教育について提起された最初の「養成すべき力」というのが、一番左

端にある、4つの領域（人間関係形成能力・情報活用能力・将来設計能力・意思決定能力）です。さらに研究が進み、その4つの領域に二つずつ8つの能力が示されました。もうすでにお気づきと思いますが、この初期のキャリア教育の概念からして、「就職・専門学校進学生徒を対象にしているだけでよい」という範疇を大きく越えていることが分かります。この4つの領域、8つの能力のコンセプトは、平成11年ごろからキャリア教育が言われ始めた頃のコンセプトです。その後、右のように、「基礎的・汎用的能力」というようにまとめられました。それが、この「手引き」が作成された平成23年ごろの話で、今から7年前です。

「基礎的・汎用的能力」というのは、経産省が提唱する社会人基礎力にも通じるジェネリックスキルです。この、スキルを磨くというのが、キャリア教育であると考えられていたのですが、ちょうど同じ時期に

「キャリア・アンカー」を育てる

という一歩進んだキャリア教育の概念が提唱されました。最初に提唱したのは、アメリカの心理組織学者のエドガー・シャインです。これは、自分のキャリア形成において、「アンカー＝礎」というものを育てるというもので、自分の人生の歩み方の中で、根本的な部分を指します。分かりやすくいうと、進路選択や職業選びの段階で、

「絶対譲れない部分」＝「キャリア・アンカー」

と理解してください。このキャリア・アンカーを十分に育てない、自覚させない中で、進路指導として「大学選び」や「職業選び」をさせてしまうので、生徒の進路選択の軸がぶれるのです。

こんなケースは無いですか？今まで、「〇〇学部系の進路をずっと行きたい」と言っていた生徒が、突然畑違いの「▼▼学部系の志望も考えている」と言ってきたというケースです。これは、まさに生徒の中にキャリア・アンカーが十分に育っていないか、自覚されていないことから、起こるケースです。

以上のことを踏まえてキャリア教育と進路指導の違いを整理すると、次のようになると思います。

キャリア教育＝キャリア・アンカーを育てる「生き方教育」

進路指導＝生徒のキャリア・アンカーを具現化させる具体的な情報提供、選択指導、進路実現に向けたサポート

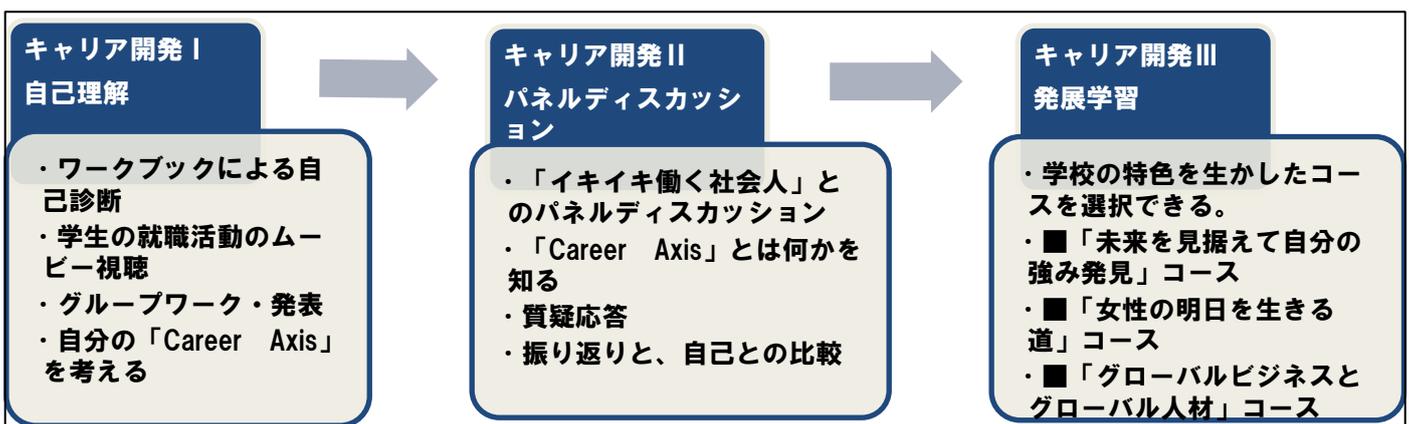
先生方の中には、進路指導をやりながら、キャリア・アンカーの形成まで踏み込んだ指導をされている方もおられると思います。しかしながら、キャリア・アンカーを育てる指導は、組織的には行われていないと思います。何も〇〇高校の進路指導が劣っているとは思いません。大阪府のキャリア教育レベルが、この程度なのだと思います。以前から、私は文科省の研究指定がされた秋田県や三重県の高校の実践研究のまとめたものを、その学校に問い合わせ資料を取り寄せていました。やはり、取り組むコンセプトが大阪府とは違うのです。進学校でもきちんとキャリア教育に取り組んでいます。キャリア・アンカーを育てているのです。本校の分野別説明会や進路別説明会などは、進路指導の一部に過ぎません。また、今年度から始めた「夢ナビライブ」もその一部でしかないのです。キャリア・アンカーを育てるために、1年生から2年生の秋冬にかけて「キャリア・アンカーを育てる系統的学習」が求められているのです。それが「クエスト後のキャリア教育をどうするか？」という本校の課題なのです。

[3] JTB CASプログラム

今回、私が体験し学んできたのは、前述したように「CASプログラム (Career Axis Support Program)」です。ここで使われている「Axis」という単語は、「軸」です。【2】で紹介したアンカーと同じ意味で使われています。それでは、このCASプログラムを紹介しましょう。

(1) プログラムの流れ

プログラムは、以下の流れで行います。



それぞれのコマは、キャリア開発Ⅰ～Ⅲが50分×2が3ステップで、50分が6コマです。JTBの説明では、「1日で行

うことも可能ですが、生徒が疲労しますので、3日に分けて行うのが良いと思います」ということです。

キャリア開発Ⅰでは、主に自らの「Career Axis」についてワークショップを行います。最初の「ワークブックによる自己診断」も、性格診断や職業適性などではなく、「軸」を中心にすえた診断になっています。例えば、次のような質問への2択回答です。

「あなたが任されたら“嬉しい”と感じるのはどちらですか？」

という質問に対して

①新しい取り組みの成功や重要なミッションの達成に向けて、チームの問題や課題の解決を担う責任者

②自分の行動が世の中の役に立っていると感じられるような場面を担う担当者

という質問が、合計4つ。2×2×2×2=16通りのパターンで自己診断します。しかし、これは、Axis=軸の発見に向けた入口で、動機付けとってください。

次に視るムービーですが、これはとてもよくできていて、「軸が無くてもあまりCareerを意識しない男子高校生」と「軸が明確な女子高生」の高卒段階から大学の就活までを描いています。軸が不安定な男子高生（これは現状満足派が多い〇〇高校の生徒の姿そのものでした）は、何となく大学に入り、就職活動をしますが、就活でめちゃくちゃ苦労します。反対に軸がある女子高生は、軸がしっかりしているので、自分の望む進路が実現できるというストーリーです。

ここで、話は少しずれますが、私が国公立大学の公募推薦の面接指導で行うのも、この「軸」の指導なのです。「自分にしか話ができないことを話さない」といいます。これが軸です。「なぜその大学を選んだのか」「何を勉強し、研究したいのか」「大学での学びを将来にどう役立てたいのか?」、この3点を自分の言葉で話せるかどうかポイントです。赴任した1年目は、まるで就職試験のような指導しかされていない生徒に出会いましたが、さすがに3年目になると「オッ!」と思わせることを話す生徒に出会えるようになりました。

話を元に戻します。このムービーの後に、自分の「軸探し」を行います。ここでもALの手法が取り上げられていて、個人ワーク（内化）→グループ討議（外化）→個人ワーク（内化）の流れで行います。

(2) パネルディスカッション

キャリア開発Ⅱは、20代から30代の高校生と年代の比較的近い社会人を招待してのパネルディスカッションがメインになります。実際に、イキイキ働く社会人を招いて、彼らの「Career Axis」を知り、自分の「軸」と比較し、己の軸を

育てていく時間です。内容は、左のような感じ

です。因みにパネラーの社会人にどんな人がいるか紹介しましょう。

実際のパンフレットには写真入りですが、それは紹介できないので、

①生徒に伝えたい一番大切なメッセージ

②職種

③コメント（どんな想いで話しているか、生徒の反応をみてどう感じるかなど・・・）

を紹介します。

内容	
① イキイキと働く社会人(性別、職種、業種など貴校にあわせた人材を派遣)と生徒でパネルディスカッションを行う。 テーマ例:「働く理由」「やりがい」 「苦労している点」「高校生へのメッセージ」	
② 社会人の働く理由に触れる。	
③ 働く理由の中で一番大切なこと (CAREER AXIS)は何かを知る。	
④ 質疑応答。	⑤ 終了後、パネルディスカッションの振り返りと自己との比較。

エントリーNo.1

①好奇心を大切に、怖がらず行動しよう!

②事務系何でも屋（正式にはコミュニケーター及びキャリアコンサルタント）

③人生、全て運とご縁とタイミング。でも、それを掴めるか否かは、努力と行動次第。努力と行動を支えるのは、健全な自己肯定感と前向きさです。今の学生は、昔より情報をたくさん得られるが故に迷うし、悩んでいる様に見えます。時代の急激な流れの中で、溺れすぎないでしたたかに楽しく前進する何かのヒントにつながれば・・・との想いで、赤裸々な現実と希望をお話させていただきます。

エントリーNo.2

①社会の正解を選べないが、正解の道は作れる

②不動産業 営業職

③僕は、学生の時、やりたいことも将来の夢もありませんでした。当時は何となく生きていけたらと思っていました。しかし社会人になり感じることは、流されて生きても、本当の意味で人生を豊かにする夢はできない、という事です。情報があふれている今だからこそ、自分の選んだ道を正解するための力、それが大事なのではないかと、考えています。

エントリーNo.3

①迷っても間違ってもいい、一歩進んでみよう

②教育プログラム・サービス開発等

③有名人でもなく、今もなお自分に自信も持てない私だからこそ、「それでも幸せに生きることができる」ことを伝えられるのではないかとお話をさせていただいております。会のなかで生徒さんの顔つきが明らかに変わる瞬間があります。行動は直ぐに変化しないでしょうが、彼らがいつか、ちょっと勇気を出したいと感じたときに、一歩踏み出す支えになってくれればと感じています。

因みにこのパネルディスカッションには、社会人パネラー2名～3名、生徒1名がパネラーになります。

(3) 発展学習

キャリア開発Ⅲは、学校と協議の上で決める内容です。さて、〇〇高校ではどんな内容が良いでしょうか？

(4) 不安解消のために・・・

さて、以上のようなプログラムですが、色々不安も出てくるでしょう。それをできる限り解決していきます。

Q. 誰がこのプログラムをするのですか？担任ですか？

A. このCASプログラムを実施するのは、担任ではありません。ファシリテーターが実施します。今回私が参加した分科会では、なんと夏期休業中に「学び未来フェス」で私が行ったポスターセッションを熱心に聞いて、色々質問をさせていただき、話題が盛り上がった「国家資格 キャリアコンサルタント」を持っておられる吉次恵美さんでした。受付で名札に自分の名前を書いているときに、「上野校長先生ですよね、夏に河合塾のフェスでお会いしました！」と言われて振り返り向くと、見覚えのある人の顔があり、キリンのマークが入った名刺をもらおうと「アッ！」と思い出しました。ワークショップの運営も素晴らしく、かなりの力量をお持ちの方でした。

Q. 実施は、クラスごとですか？学年一斉ですか？

A. このプログラムの実施は、2クラス～3クラス程度で行うのがベストのようです。私立高校などでは、コース別に実施しているケースがあるという事です。本校ならば、一つのプログラムを1・2限、3・4限、5・6限と特別時間割を組んで、実施するのが良いと思います。クラスの組み方も、文スタ、理スタ、文アド、理アドなどコースの枠内でとどめるのではなく、文理混合、コース混合が良いのではないのでしょうか？そのほうが、様々な生徒が混ざることで、軸に多様性が生まれ、刺激も増幅されると思います。

Q. 実施時期はいつごろが良いだろうか？

A. 私は、体育祭が終った6月が良いと思います。この「軸探し」のプログラムを経験した上で、「夢ナビライブ」や夏休みのオープンキャンパスに参加することで、さらに「自分の軸」が明確になると思います。そして、修学旅行で、「留学生の軸」に触れ、秋に「地元の企業人の軸に触れる」という流れは如何でしょうか？

Q. 値段はいくらですか？

A. 値段は、生徒一人あたり、6000円で教材費なども全て込みです。この辺りは、内訳がどうなっているかで、私費と校長マネジメント経費との間で分離可能かどうか、今後の詰めになると思います。

【4】最後に

以上が、私が大宰府の近くの山の中にある九州情報大学で経験してきたCASプログラムです。担当の早川氏に言わせると、

「このCASプログラムは、キャリア教育に必要なマインドとスキルのどちらに力点をおいているかと言えば、明らかにマインドです」

と力説していました。「現状満足派」の多い本校では、この「マインドを変える、育てる」ということが、とても重要だと思います。このマインドを変えるには、分野別・進路別説明会だけでは不十分です。情報提供をした上で、生徒の「生き方」に切り込む教育が必要です。その一端を担えるのがこのCASではないかと思うのですが・・・。

誤解が無いように言っておきますが、このCASを導入したからといって、生徒のマインドが直ぐに変わるわけではありません。このプログラムで生徒全体に網をかけ、その後は個別の指導で「軸」を育てていくこととなります。その個別指導の最たるものが、科目選択なのです。どのような進路を考えて、科目を選択するのか、科目選択こそ進路に関わる個別指導の主戦場です。まあ、これだけでは、理解できないと思いますが、単位制導入で大きな成果を挙げた鳳高校のスローガンは「**科目選択は進路選択、進路選択は科目選択**」です。つまり、教科の得手不得手や、ましてや好き嫌いではなく、1年生から将来を見据えた進路を考えさせる中で科目選択指導を行うのです。機会があれば、単位制高校の進路指導も紹介しましょう。泉陽にいる頃に、鳳が飛躍的に進学実績を挙げました。その要因が何かを知るために、鳳の学校説明をきいたら、このスローガンを掲げていました。

一度、早川氏に学校に来ていただいて、私が体験したワークショップを先生方に体験していただこうと思います。いつものように、研修ではなく勉強会形式です。意欲のある方、必要と思われる方は参加してください。